

2023 年の「テンプルでの一日」の紹介

アーシャ・リチャーズ

シッダ・ヨーガの道では、毎年8月8日にバガヴァーン・ニッティヤーナンダの——または、私たちが愛情を込めて呼ぶ「バデ・バーバ」の——太陽暦のプンニャティティを祝います。本当のことを言えば、バデ・バーバの祝福は私たちの生活に毎日あふれています。それでも、彼のプンニャティティ——彼が死を免れない肉体を脱ぎ捨てて至高なる意識に融合することを選んだ日——には、信じられないほど縁起の良い何かがあります。

今年、2023 年、シッダ・ヨーガの生徒と新しい探究者たちは、8月5日土曜日の「テンプルでの一日」に参加することで、この機会を祝うように招待されました。このイベントは、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのバガヴァーン・ニッティヤーナンダ・テンプルからのライブ動画配信で開催されます。ほとんどの人が参加するのに都合の良い時であるため、土曜日に開催されます。そうは言っても、もちろん、8月8日のプンニャティティ当日をあなたなりの方法で敬意を表し、祝うことができます。

「テンプルでの一日」の間、私たちはバデ・バーバのダルシヤンに没頭します。私たちはバデ・バーバの栄光を大いに楽しみます。そして、シッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールにいる 12 時間の間、私たちは次のようなシッダ・ヨーガの修行に取り組む機会があります。

アーラティー——自分の選んだ神を崇拝するために炎を揺らす、

ナイヴェーディヤ——神への食べ物のささげ物、

ナーマサンキールタナ——神の名をチャンティングする、

マナン——熟考、

そしてディヤーン——瞑想。

1978 年8月、バーバ・ムクターナンダはインドのガネーシュプリーにあるバガヴァーン・ニッティヤーナンダのサマーディ・シュラインで話している時、いつの日か全世界がバデ・バーバのサマーディ・シュラインを訪れるだろう——つまり全世界がバデ・バーバを知るようになるだろう——と述べました。バーバの言葉は、数十年後にシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのバガヴァーン・ニッティヤーナンダ・テンプルからライブ動画配信を通じて行われる多くのサツァング、プージャー、ダルシヤンのすべてを予告していたのです。

さらに、テンプルでは——バデ・バーバの面前で、それを目撃していた何人かと共に——グルマールイは 2010 年に、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトを開くことを決意しました。グルマールイの意図は、世界中の誰もが彼女の教えを受け取ること——そして効率的で長距離を移動する必要のない方法で、皆が、まさに一緒に、そろって教えを受け取ることができるようにすることでした。1年後、バデ・バーバのプンニャティティの 50 周年という黄金の記念日の頃、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトは再開したのです。

「バガヴァーン・ニッティヤーナンダのプンニャティティを祝うテンプルでの一日」は、バデ・バーバが在りし日々にさまざまな職業や地位を持つ非常に多くの探究者たちがした、彼の前に来て、彼のダルシヤンを受け取ることがどのようなものであったかを知る手立てを世界中の人々に与えます。それは、当時のダルシヤンの雰囲気と呼び起こすのです——その静けさ、その甘美さ、そして探究者がバデ・バーバにささげ物をし、謙虚に彼の祝福を求めた時に持っていた献身のバーヴ、すなわち内なる姿勢を。

人々はバデ・バーバのダルシヤンを受け取るために、インドを広く旅して来ました。実際、私自身の親戚の何人かはそうしました。特に私の祖父は、バデ・バーバに会うために、聖なる存在の前にいるために、ムンバイからガネーシュプリーまで何度も旅しました。彼のように、他の多くの人々がやって来て、時に彼らは特定の願いや願望を持ち、それをバデ・バーバに伝えまし

た。多くの場合、これらの願いは、健康、財政、家族の問題など、彼らの生活全般に関係していました。穏やかな表情と惜しめない寛大さで、バデ・バーバは彼らが切望していたものは何でも与えました。彼はさまざまな形でプラサードを与えました——例えば、彼が触れることで治癒力を獲得し、探究者たちの病気を奇跡的に治した葉や、特に彼のそばにいたいと思っていた多くの子どもたちに与えたお菓子という形などで。

そして、神を知りたいという切望、バデ・バーバの偉大さを理解し、自分自身の神聖な自己を体験したいという切望を持ってバデ・バーバの前に来た探究者たちがいました。多くの学者がインドの教典についての知識を深めるためにバデ・バーバの前にやって来ました。多くのスワミ、僧侶は、より大きな精神的な知識を得るためにやって来ました。人がどのレベルにいても、そこでバデ・バーバは彼らに会ったのです。誰も手ぶらで帰ることはありませんでした。

バデ・バーバは各人に最も望むものを何でも与え、その一方で彼は全く完全に彼自身の中に確立されていました。彼の存在には揺るぎない安定性があり、彼と一緒にほんの少しの間でも座っていた人なら、誰でもそれが分かりました。彼らは、他にどれほど大勢の人々がダルシャンを受けていたとしても、バデ・バーバがまさに彼らと一緒に、彼らのためだけにそこにいると感じたものでした。それは、例えば、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムにあるバデ・バーバの temple を——直接またはバーチャルに——訪問し、彼の存在を体験した何世代にもわたる探究者たちにとって、今日も真実である感情です。

ダルシャンの間、バデ・バーバは彼の英知も伝えました。時々、彼は非常に長く話しました。またある時には、彼の言葉は格言的な性質を持っていたり、あるいは、バーバ・ムクターナンダが『プレイ・オブ・コンシャスネス』の中で印象深く記録しているように、素敵に歌うような声で、ただ「フーム」と言ったりしたかもしれません。バデ・バーバが発した言葉に、探究者はまさにすべてを見つけることができました。そして、彼の沈黙——彼の存在を覆い尽くし、彼がいたどんな空間も満たすように思われる絹のような沈黙——の中に、探究者たちは自らの苦難からの

休息と永続する内なる平和を見つけました。それは、農民であれビジネスマンであれ、世帯主や僧侶、観光客や単に興味本位な人であれ、バデ・バーバの所に来たすべての人にとって普遍的な体験でした。料理人、詐欺師、懐疑論者、または皮肉屋であろうと、そうでした。それらの人々は皆、バデ・バーバの所にやって来て、彼の面前で、すっかり変わりました。

ダルシャナールティ、ダルシャンに来る人々——この神秘的な存在を垣間見ることを切望する人々——の流れは、絶えず続きました。インドの習慣として、これらの人々は資力に応じて、できる限りのささげ物を持ってきました。人々はダクシナーをささげました。バデ・バーバに新鮮な花や果物、穀物、衣服をささげました。自らの技をささげる人もいました。歌い手はバジャンやナーマサンキールタナを作曲して歌い、踊り手は古典的なインドの踊りを披露し、詩人は自作の詩を朗唱しました。裕福な人々は、バデ・バーバのダルシャンに来たすべての人に食べさせるために、大きなバンダーラー、すなわちごちそうを提供しました。

バデ・バーバは 1961 年8月8日に肉体を離れましたが、60 年以上を経た今でも、探究者はバデ・バーバのダルシャンを受け取ることができ、まさに受け取っています。人々は、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムとグルデーヴ・シッダ・ピートゥにあるバデ・バーバの temple を訪れた時に彼らのバデ・バーバの体験がどれほど強く、どれほど理屈抜きで明白であるか、数え切れないほどの機会にグルマリーと共有してきました。そしてグルマリーに尋ねました。「どうすればバデ・バーバを家に連れて帰ることができますか？」

この質問に答えて、グルマリーは人々に多くの美しい答えと心の中にバデ・バーバの存在を呼び起こすことができるさまざまな方法を与えてきました。それでも、人々はグルマリーを甘く懇願するようなまなざしで見て、さらに具体的なものを求めようとするでしょう。そこでグルマリーは、バデ・バーバの小さなムールティをシッダ・ヨーガ・ブックストアで入手できるように要請しました。このようにして、人々は自分の家でバデ・バーバを崇拝し、彼のダルシャンを体験することができるのです。

8月5日の「 temple での一日」の間、私たちは皆、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのバデ・バーバの temple でバデ・バーバのダルシャンを受け取る機会があります。私は今、あなたがこの修行に長い時間取り組むことがどのようなものかについて、もう少し話したいと思います。

自分の心に触れ、自分の中に神聖なる者の存在を見つけるために努力する時に、ダルシャンの修行がどのように大きな利益をもたらすかを直接知っていることは、シッダ・ヨーガの道を歩む私たちの幸運です。

例えを挙げさせてください。山の頂上にたどり着くには、多くの努力が必要です。しかし、その努力をして、その山頂に登って目を上げると、見事な、とても魅惑的で広大な景色に囲まれていることに気づき、言葉を失います。思考は静かになり、あなたの存在のすべての細胞は、畏敬の念であふれるようです。あなたは完全に別の領域に到着したと感じます。

同様に、内側に入り、自分の心と触れるための意識的な努力をする時、ダルシャン——真のダルシャン——が起こります。それはマインドが作り上げることができるものとも、以前に見たものとも異なる体験です。ダルシャンの体験は、あなたを神性の領域へと連れて行きます。

私は何年にもわたって、ダルシャンの重要性について、そして幾つかの非常に実用的な方法で、ダルシャンの実践においてどのように注意深く意図的になることができるかについて、グルマーイから多くを学びました。私が学んだダルシャンを実践する際の幾つかのステップをあなたと共有したいと思います。

- まず、この日に、 temple にいられるのが1分か 100 分かを確認してください。

- ターダーサナ(ハタ・ヨーガの山のポーズ)で立ち、足を互いに平行にし、腕は体の脇で、手のひらを太ももに向けます。
- 目の筋肉をリラックスさせ、視線を受容的にします。
- このように自分自身を確認している間、あなたの注意は間違いなくあなたの呼吸に引き付けられます。
- 呼吸を均一で安定した流れにすると、安らぎで満たされます。
- 悩みや不安がだんだん静まってくることに気づくかもしれません。
- 自分の存在の中心を見つけたら、耳を傾けてください——マントラの繰り返しは自然に起こり始めます。
- この質問を意識してください。「誰が誰を見ているのか？」『ヨーガ・ヴァーシシュタ』は、見る者と見られる者が一つになることについて教えています。これがダルシヤンの成果です。

8月は、奇跡の贈り物、神聖な伝授の贈り物です。シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで「 templeでの一日」に皆さんを招待した時に、ガウリー・マウラーは今月をそのように表現しました。バデ・バーバの在りし日々のダルシヤンについて私が聞いたこと、そしてグルマリーから学んだダルシヤンについての教え、それらの思い出を締めくくるに当たり、私はあなたにぜひ言いたいと思います。「 templeでの一日」に対する私の期待は最高に高まっています。そして、あなたもまた 2023 年8月5日にシッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールにいるのが待ち切れないだろうと考えることは、100 パーセント正しいと確信しています。

